



## 雇用創出に関する取組について

ふるさといわて創造プロジェクト参加高等教育機関では、いわてキボウスター開拓塾の他にも雇用創出に関する様々な取組を展開しています。今回は3つの取組について紹介します。

### パテコンサミットin一関《一関工業高等専門学校》

一関高専では平成22年度より文科省、特許庁などが主催する「パテコンテスト」に取り組んでいます。当初はなかなか結果を出せませんでしたが、最近では主催者賞や優秀賞など毎年のように受賞し、学生の登録特許も5件と、いつの間にか受賞件数では大学・高専のトップクラスとなっています。この背景にはコンテストで優れた実績をあげている大学・高専の指導者等との勉強会「パテコンサミットin一関」(平成27年度より開催)の存在があります。「発明のタネ」、「商品化・ビジネス化」、「採択申請書の事例紹介」などをテーマとして相互に手の内を披露しながら研鑽を積んでいます。

第4回の今年度(1月18日(金)開催)はコンテストの創設に関わった先生から「地域の未来を築く知的財産教育」と題し、学生へ直接届けるメッセージとして対話型の講演をしてもらいました。

### ビジネス・クリエーションセミナー《岩手県立大学》

岩手県立大学では、2月21日(木)～22日(金)にCOC+参加校の学生を対象にビジネス・クリエーションセミナー2018を開催しました。

このセミナーは、社会人として仕事をする上での視点を身に付けるため、起業から組織運営までの全般的な内容や資金調達・管理の基本にかかわる講義(演習を含む)のほか、実際に活動している法人の事例、いわてキボウスター開拓塾を紹介することで、受講者自身やグループのアイデアをビジネスにつなげていくことを学習目的に開催したものです。

実際に社会人経験を経てベンチャー企業の立ち上げや支援に携わった専門家やベンチャー企業経営者に講師を依頼し、実体験に基づいた実践的内容の講義をしていただきました。

参加者は4名でしたが、講師との真剣なディスカッションも交えた意欲的で真摯な姿勢で受講していました。



### 学内カンパニー報告会《岩手大学》



岩手大学では、教育で得た知識を実践しものづくりを総合的に体験する場として「学内カンパニー」活動を実施しています。この活動は、学生が教職員や企業・自治体の協力のもとバーチャル企業である「学内カンパニー」を設立し、一般企業のように事業計画から原価計算、製作、損益確認まで学生自ら行うことによって事業運営を実体験し実践力を養うことを目的としています。

この学内カンパニーの平成30年度報告会が2月28日(木)、岩手大学内で開催されました。当日は防災システムの構築やゴミ収集日通知アプリの開発など今年度活動した10カンパニーによるパネル・成果品展示やショートプレゼンテーションが行われ、約60名が参加しました。このような取組を通じ、学生の起業マインドが徐々に醸成されていくことが期待されます。

## 陸前高田グローバルキャンパスで「春呼び祭」を開催しました

2017年4月、岩手大学と立教大学は、陸前高田市米崎町に交流活動拠点「陸前高田グローバルキャンパス(RTGC)」を開設し、現在までに約1万人の方々が訪れ、学生と市民、また、陸前高田市で活動する学生同士の交流などに利用されています。

陸前高田市を中心に活動する全国の大学生・教職員の復興支援の取組を発表し、市民及び参加する学生等が交流する機会として2017年から「大学シンポジウム」を行ってきましたが、2018年度は市民の方々にRTGCをより身近に感じていただくとともに



に、より多くの市民と大学生・教職員が交流を深め、新たな取組や息の長い交流のきっかけとなるよう、市民の方々と一緒に一から作り上げるイベント「春呼び祭」を3月16日(土)～17日(日)に実施しました。

「春呼び祭」では、岩手大学・立教大学の学生サークルによる模擬裁判や落語、中高大生を交えたジャムセッション、大学教員とゆかりのある地元農業グループによる農産物販売、古館伊知郎氏によるトークライブなどはじめ、多くの市民の方々にご参加いただきました。



## 「課題解決(PBL)型授業体験」を開催しました

1月18日(金)、ふるさといわて創造協議会におけるFD研修事業として「課題解決(PBL)型授業体験-学生の課題解決力&地域理解の向上-」を開催しました。PBL(Problem/Project Based Learning)の手法は、問題や課題を解決するための議論を通して学生の主体的な学習を促進するものです。本研修は、地域と教員・学生が共に課題解決に取り組むことで相互理解を深め、地域のPBL型授業への積極的な参画を促進することを目的としています。残念ながら学生の参加がなかったものの、「若者に選ばれるまち/企業」をテーマとして自治体職員と大学教職員がグループワークを行い、活発な議論がなされました。参加者の方から「他地域の方と協議できて参考になった」、「異なる視点から課題を見ることができた」等の感想をいただいたことから、今後も情報交換や連携の機会を通して、地域と協働した教育を推進する一助となればと考えています。



## 岩手県内事業所見学バスツアーを実施しました

1月18日(金)、滝沢市にて自治体・企業等の全面的な協力により、岩手県内事業所見学バスツアーを実施しました。このツアーは、学生が地域企業について知り、地元定着の促進につなげることを目的に企画・実施しているもので、岩手大学生5名、岩手県立大学生2名、盛岡大学生2名が参加し、事業所の見学やそこで働く方々との交流などを通じ、地域企業についての認識を深めました。



参加者からは、「自分が持つ理系と文系の概念は企業によって異なり、視野を広げることで活躍できる場所はたくさんある、ということを実感した」、「世界シェアNo.1を誇る企業が岩手県にあることに驚嘆した。自分の仕事に対する視野を広げることができた」などの声が寄せられました。

## 産学協働インターンシップフォーラム

2月26日(火)に東北インターンシップ推進コミュニティ(幹事校:岩手県立大学)の主催で「産学協働インターンシップフォーラム」をいわて県民情報交流センター(アイーナ)で開催し、全国から大学、行政、企業等の担当者約50名が参加しました。文科省が創設した「大学等におけるインターンシップ表彰制度」で最優秀賞を獲得した山形大学からの事例発表やパネルディスカッションを通じて、低学年次からのインターンシップの教育効果を認識することなど、有効なインターンシップの実施について再考する機会となりました。参加者からは、「インターンシップは学生のためになると同時に、企業の採用力向上や働き方改革の促進など企業のためにもなり得るという点に気づいた」などの感想が寄せられました。



## いわてキボウスター開拓塾第5期最終報告会を開催しました

いわてキボウスター開拓塾第5期の最終報告会が3月1日(金)、盛岡市産学官連携研究センター(コラボMIU)で開催されました。複数名のチームによる取組が主体であった第4期までとは異なり、今回は個人による取組が中心となり、参加学生はマーケティングや経営戦略など起業に必要な知識の習得をベースに、各々でビジネスプランを考えました。当日は約80人が来場し、まちづくり、観光、食・農業など14のテーマで5期生全18名がプレゼンに臨みました。

### 参加学生の声

岩手県立大学  
社会福祉学部3年  
加倉 侑輝

僕が今多くの方々とかわり、活動できているのは、いわてキボウスター開拓塾のおかげです。多彩な講師の方々とのお会い、フィールドで感じる岩手の魅力は僕自身を豊かにし、毎週末、少しずつ大人になっていく実感を得ることができました。それから何より、キボウスターというコミュニティのなかでこれまでに修了した80名の仲間を持つことができました。一人では先が見えない状況も、80名が集まれば光が差し込んでくる気がする。僕はキボウスターのメンバーになれたことに感謝し、そして共に切磋琢磨しながら明るい未来へと歩みを進めます。

### 創業機運醸成賞授賞式が行われました

前号でいわてキボウスター開拓塾の「創業機運醸成賞」受賞についてお知らせしましたが、その表彰式が2月13日(水)、東京都千代田区のJPタワーで行われ、赤木徳顕塾長が出席しました。この賞は経済産業省中小企業庁が地域における創業に関心をもちたいと思います。私の岩手での3年間を支えてくださった皆様、どうもありがとうございました。



をもたせる継続的な取組を表彰するもので、表彰式では受賞した20団体それぞれに記念の盾が授与されました。

## 退職のご挨拶

### 岩手大学特任教授 赤木徳顕(起業家人材育成プロジェクト担当)

いわてキボウスター開拓塾(キボウスター)では2年半に渡って80名の卒塾生、18名の県内起業家、その他多くのメンターやスタッフの皆さんと、岩手で新しい価値を創り出す活動に取り組み、それを前向きに実践できるコミュニティを萌芽させる事は出来たかなと思っています。その2年半で私自身のキャリアアップの必要性も感じ、この度も次のステップに進みますが、岩手とさようならするつもりはありません。地方創生の重要施策である2拠点居住を自ら実践するべく、盛岡に新たな住まいも決めました。第2ステージ、僕もキボウスターも新たなスタートです。

### 岩手大学特任准教授 船場ひさお(若者・女性地域定着プロジェクト担当)

この度3年の任期を終え、拠点を東京・横浜に戻すことになりました。とはいえ、最終年度も客員の立場ではありますが、折に触れてCOC+プロジェクトに参画して参りますので、どうぞ今後ともよろしくをお願いします。

この3年間、広い岩手でたくさんの魅力的な皆様に出逢うことができました。岩手の美しくも厳しい自然や、多様な文化も実感しました。これは私の人生の宝です。これからは私も岩手人の一人として生きていきたいと思っています。私の岩手での3年間を支えてくださった皆様、どうもありがとうございました。